

# 街を行く

第56回 大阪 Osaka

## 都構想、大阪だけの問題じゃないのだよ

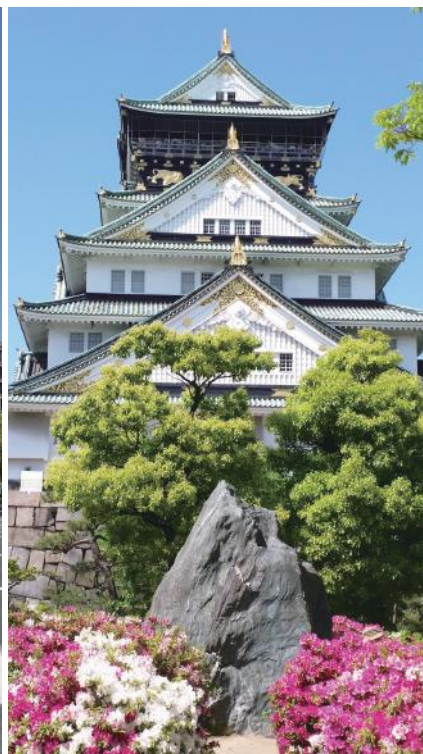
今回は大阪。都構想の是非をめぐる住民による直接投票を控えたGWに訪れました。この記事を読まれている頃には決着がついているのですが、この時点では全く解りませんでした。構想はそもそもなぜ出てきたのか、巷ではさまざま言われています。府と市の二重行政には無駄が多く非合理的だという問題を解決するためという事は解ります。しかし今なぜ叫ばれているのか。理由のひとつは橋下市長というスター政治家が唱えていることがポイントでしょう。何かにつけ派手なパフォーマンスは時に反感を買うこともあります。地盤沈下の激しい大阪をよく支えているものです。これは首長としての重要な役目を全うしていると言えますし小生の目にも合格点です。取り巻きがパツとしないのは“ワンマン・ボス”の仕方ないところでしょう。

もうひとつは大阪の地盤沈下が激し過ぎることです。極端に冷静に考えると、天下の台所と言われた秀吉の頃が最盛期でそれ以後はずっと下り基調です。夏と冬の大阪の陣の敗北は後世までもこんなに影響を及ぼしている(?)。もはや東京から見る大阪はたんなる地方都市なのです。今回、歩いて大阪の特徴は何かを考え続けた挙句、たどり着いたのは「大阪城」でした。またしても秀吉の遺産頼りです。これほど街の特徴を出す写真撮影に苦労したことはありません。他に何も無い。この地で生まれ育った小生でも思いつかない。都市機能は国の内側から見てもわからないものですね。

地盤沈下からの浮上という点では、東京に対抗するためには都構想ではなく、大阪



大阪城と大阪市庁舎、この街のピークは秀吉の時代なのか？



らしさを踏まえた府構想が必要なのでしょう。東京がニューヨーク、ワシントン、ボストンであるならば、大阪はロサンゼルス・サンフランシスコでいいではありませんか。

一端離れた企業がもう一度大阪に戻ってくる事はむずかしいでしょうから、この地で新しい産業を興していくしかありません。それには大阪シリコンバレー構想ぐらい打ち立てて、東京との違いを鮮明にして行く必要があります。税制面も含めてより魅力あるマーケットにして行くことではないでしょうか。観光産業の充実を目指すのも良いですが、それで持ちこたえるにはこの街は巨大過ぎます。東京と同じぐらいの産業が生まれないと無理かもしれません。この街が

元気にならないと地方都市も再生しませんよ。

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。